

エイズ患者や HIV感染者ならびに 新型コロナウイルス感染症 に関する人権問題



H

HIVは職場や学校
では感染しません

HIVは次のような日常生活を通じて決して感染しないことを職場や学校にいる全員が知り、「いじめ」などが生じないようにする必要があります。

エイズ・HIV（エイズウイルス）感染症は、治療法の進歩によりコントロール可能な慢性疾患となり、社会では多くの方が治療を受けながら働き、学び、生活しています。しかし、このような状況の変化について正確な情報が浸透しておらず、エイズ患者・HIV感染者に対する差別や偏見が今でも根強く存在しています。

また、世界中で猛威をふるつている新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は未だ大きな影響を受けています。感染した方やその家族、医療従事者などに対する誹謗中傷や偏見・差別といった問題だけに止まらず、現在は、感染防止対策としてマスクの着用や新型コロナワクチン接種が推奨されていますが、病気や体調など、様々な理由でマスクをつけたくてもつけられない方やワクチンを接種したくてもできない方に対して、その対策を強要したり、職場や学校等で不利益な取り扱いを行うなどの問題も発生しています。

人々は未知の病気に対し不安に駆られたり、過剰に反応したりしてしまいます。そのようなことが起こらないようにするには、感染症について正しい知識をもつとともに、もし、自分が、家族が、友人が感染したら…と想像力を働かせて理解することが大切です。

● 飛まつ

くしゃみ・せき・汗・涙ではうつりません。



● 性交渉以外のからだの接触

握手をしたりエレベーターなどで接触してもうつりません。



● トイレ

トイレを共用してもうつりません。



● 宴会や会食

食べ物を分けあったり、食器を共用してもうつりません。

